

小田原駅西口に立つ 今にも躍りでそうな牛の像

全国各地には、その土地のゆかりの人物の銅像が見られる。

鹿児島市城山下の西郷隆盛像、水戸駅北口の水戸黄門像、高知市桂浜の坂本竜馬像などがある。

小田原駅西口（新幹線口）に降り立つと、そこには「北条早雲公」と銘打たれた大きな像が立っている。

世に銅像は数多いが、これほど躍動的で勇壮なものも少ないのではなからうか。

角に松明つるを結わえつけた三頭の牛が重なって坂を駆けおるさま、そのわきに馬上で采を振る北条早雲の姿が生き生きと表されて、今にも動き出しそうな雰囲気である。

ことに先を争って進もうとする牛の動きが、見事にとらえられている。これは明応四年（二四九五）、早雲が小田原に進出したときの姿である。

当時、早雲は伊豆韮山にあって関東進攻の機をうかがっていたが、小田原には関東管領上杉家に属する勇将大森氏頼がおり、行く手をはばんでいた。ところが明応三年、その氏頼が病死し、子の藤頼が跡を継いだ。

この機会に、早雲はしばしば贈り物をして藤頼に取り入り、ついには攻守同盟を結ぶまで

に心をつかんだ。

すっかり油断させた早雲は、ある日使者を立て、「当国で鹿狩りをしていたところ、鹿どもが集まった。

願わくは我らの勢子せこをご領内に入れて当方へ追い返したいが、よろしいか」と伺いを立てた。

藤頼は早雲を信用しきっているので、これを承知してしまった。

そこで早雲、勢子や犬引きに変装した兵を待機させ、夜を待って密かに集めておいた数十頭の牛の角ごとにつけた松明を燃やし、箱根山から一気に小田原城に追い落とした。

これを見て、城方は慌てふためき、すぐに応戦もできず、早雲は苦もなく城を乗っ取ってしまった。

後北条氏による小田原領知百年の始まりである。

ワンポイント知識

家庭用の冷蔵庫での肉の保存

食肉を家庭用の冷蔵庫で保存する場合、ひんばんな扉の開閉により、庫内温度が上昇しないように注意し、まんべんなく冷気が行き渡るように庫内に食品を詰め込みすぎないことが大切です。家事の都合などでまとめて購入した場合は、料理用途別に切り分け、外気を遮断するラップ材や密閉容器で保存してください。鮮度の良いうちになるべく早く食へ切ります。